



京大広報

No. 609

2006. 2



フィールド科学教育研究センター時計台対話集会を開催
—関連記事 本文2101ページ—

目次

〈大学の動き〉

- 平成18年度入学者選抜学力試験
(第2次学力検査等)の実施日程……………2086
- 平成18年度入学者選抜学力試験
(第2次学力検査等)の志願状況……………2087
- 平成18年度概算要求内示概要……………2088
- 自衛消防団員に対して感謝状を贈呈……………2089
- 博士学位授与式……………2089
- 平成17年度定年退職教員……………2090

〈部局の動き〉

- 宇治キャンパスで危機管理への取り組みを実施……………2093

〈寸言〉

- 道草が生んだ世界 神谷 徹……………2094

〈随想〉

- 時計台記念館の歴史展示室
名誉教授 応地利明……………2095

〈洛書〉

- 思いもよらぬこと 森本幸生……………2096

〈保健コーナー〉

- 鳥インフルエンザの脅威 藤井信孝……………2097

〈訃報〉

- ……………2098

〈話題〉

- 総合博物館 平成17年秋季企画展6,500人を突破……………2101
- フィールド科学教育研究センター
時計台対話集会を開催……………2101
- 京都大学未来フォーラム(第20回)を開催……………2102

〈日誌〉

- ……………2102

〈医療技術短期大学の動き〉

- 平成18年度専攻科助産学特別専攻入学者
選抜試験を実施……………2103

〈お知らせ〉

- 21世紀COEプログラム公開シンポジウム
「やさしい先端経済分析～先端理論による
経済システムの解剖～」……………2103
- 河上肇記念講演会……………2104
- 大学文書館企画展……………2104

〈編集後記〉

- ……………2104

京都大学広報委員会

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

話題

総合博物館 平成17年秋季企画展6,500人を突破

総合博物館では、平成17年秋季企画展「日本の動物はいつどこからきたのかー動物地理学の挑戦ー」の入館者が平成17年12月17日（土）、6,500人を突破し、記念セレモニーが行われた。同日午後、入館者として通算6500人目となったのは奈良県から祖母と一緒に京都を訪れた河田大樹君（写真左）。同館の中坊徹次館長から記念品として、企画展図録等が贈呈された。本企画展は、進化を軸に動物の多様性を体系的に把握する動物地理学の面白さ、大切さを貴重な標本とともに広く社会に紹介するもので、平成17年9月28日（水）-1月22日（日）まで開催された。



中坊館長から記念品を贈られる河田君（左）

フィールド科学教育研究センター時計台対話集会
「森と川と海の対話ー安心・安全な社会を求めて」を開催

平成17年12月18日（日）に時計台記念館百周年記念ホールにおいて、フィールド科学教育研究センター時計台対話集会「森と川と海の対話ー安心・安全な社会を求めて」が開催された。第2回となる今回は、日本の森の再生を求めて自らも「アフアの森」創りを進めているC.W.ニコル氏による「森を育てて海を想う」、日本の河川の再生に向けて活躍している天野礼子氏による「川仕事」も「森仕事」も、「森は海の恋人」運動を精力的に推進する牡蠣の森を慕う会代表畠山重篤氏による「汽水に生きる」、そして尾池和夫総長による地震学者の立場からの「地球社会の共存」の講演の後、日本経済新聞編集委員土田芳樹氏のコーディネイトによる会場と講演者による対話が行われた。

この対話集会は、森と川と海のつながりに人と自然の共存原理を求める新しい統合科学「森里海連関学」の創生を追求するフィールド科学教育研究セ



ンターの活動の一環として実施されているものである。安心・安全な社会の再構築は現代社会の大きな関心事であり、その重要な自然的基盤となる森と川と海のつながりについて考えてみようとの呼びかけに、参加者は350名におよんだ。次世代を担う高校生・大学生・大学院生の参加者も多く、若い人々からの発言も活発で、実りの多い対話集会となった。

（フィールド科学教育研究センター）